レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

2026 年 4 月 1 日

殿

平井興産株式会社　能美営業所
広島県江田島市能美町高田2112
TEL：(0823)45-2196　FAX：(0823)45-2146
配合計画者名　平井　徹

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	9月1日～6月30日標準配合、7月1日～8月31日夏期配合 (修正標準配合)
コンクリートの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	21	8	40	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項（任意）	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	― kg/m³
	舗装コンクリートの強度試験方法	―	コンクリートの温度	― ℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水セメント比及び／又は水結合材比の目標値の上限	― %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		
	塩化物含有量	0.30 kg/m³以下	単位水量の目標値の上限	― kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	― 日	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	― kg/m³
	空気量	― %	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	― cm

使用材料

セメント	生産者名	UBE三菱セメント株式会社		密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq %	―
混和材	製品名	―	種類	―	密度 g/cm³	―	Na_2Oeq %	―

骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分 区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	表乾	微粒分量の範囲%
細骨材	①	砂	福岡県福岡市西区小呂島南西沖 海砂	A	化学法	5mm以下	2.40	2.50	2.58	―
	②	―	―	―	―	―	―	―	―	―
	③	―	―	―	―	―	―	―	―	―
粗骨材	①	砕石	呉市広町蜘蛛取迫	A	化学法	20～5	―	―	2.65	0.5±0.5
	②	砕石	呉市広町蜘蛛取迫	A	化学法	40～20	―	―	2.65	0.5±0.5
	③	―	―	―	―	―	―	―	―	―

混和剤①	製品名	78S	種類	AE減水剤標準形I種	Na_2Oeq % ―
混和剤②		―		―	―
細骨材の塩化物量	① ― %	水の種類	地下水	目標スラッジ固形分率	―
回収骨材の使用方法	細骨材 ―	粗骨材	―	スラッジ水の使用方法	―

配合表 kg/m³

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
260	―	153	746	―	―	679	453	―	2.60	―

水セメント比	59.0 %	水結合材比	― %	細骨材率	40.3 %

備考

修正標準配合として次に示す適用期間の間，混和剤の単位量のみ変更。
夏期 7月1日～8月31日 +1.4倍
骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。

レディーミクストコンクリート配合計算書

配　合　の　設　計　条　件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普　通	21	8	40	BB

変動係数	V	当工場の実績により	10　%
割増係数	α	$\alpha = \dfrac{1.0}{1 - \dfrac{2.0 \times V}{100}} = 1.250$	$\alpha = 1.250$
配合強度	m	$m = \alpha \times SL = 1.250 \times 21 = 26.3$	26.3　N/mm²
水セメント比	W/C	$m = a + b \times C/W = -11.95 + 22.72 \times C/W$ $W/C = \dfrac{b}{m - a} = \dfrac{22.72}{26.3 + 11.95} \times 100 = 59.0$	 59.0　%
単位水量	W	当工場の実績により	153 kg/m³
単位セメント量	C	$C = \dfrac{W}{W/C} \times 100 = \dfrac{153}{59.0} \times 100 = 260$	260 kg/m³
	Cv	Cv = C ÷ 密度 = 260 ÷ 3.04 = 86	86 ℓ/m³
空気量	A	A = 設計容積 × 空気量(%) = 1000 × 4.5(%) = 45	45 ℓ/m³
骨材の絶対容積	Va	Va＝設計容積－(W＋Cv＋A)＝1000－(153＋86＋45)＝716	716 ℓ/m³
細骨材率	s/a	当工場の実績により	40.3　%
単位細骨材量	Sv	Sv＝ Va × s/a(%) = 716 × 40.3(%) = 289	289 ℓ/m³
	S	S = Sv × 密度(2.58) = 746	746 kg/m³
単位粗骨材量	Gv	Gv = Va － Sv = 716 － 289 = 427	427 ℓ/m³
	G	G = Gv × 密度(2.65) = 1132	1132 kg/m³
	G1	①G1 = G × 60(%) = 679	679 kg/m³
	G2	②G2 = G × 40(%) = 453	453 kg/m³
単位混和剤量	AE	AE＝C×添加率(%)＝260×1.00(%)＝2.60	2.60 kg/m³

配　合　表　kg/m³

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
260	－	153	746	－	－	679	453	－	2.60	－

水セメント比	59.0　%	水結合材比	－　%	細骨材率	40.3　%

備考